開催報告

「日本真空工業会・日本表面真空学会 関西支部の協奏活動」 — 秋季合同講演会開催報告 —

桑 原 裕 司*

大阪大学大学院工学研究科
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1

(2018 年 11 月 12 日受理)

Report of Kansai-Branch Autumn Symposium — Joint Hosting of JVSS and JVIA

Yuji KUWAHARA*

Graduate School of Engineering, Osaka University,
2-1 Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871

(Received November 12, 2018)

1. 特別講演会

関西支部では、日本真空工業会（以下「工業会」と）協力・協奏関係を維持・発展するため、合同講演会開催等の活動を、定期的にかつ積極的に行っている。今回の「秋季合同講演会」では、「接合・接着」をテーマに挙げ、9月26日（水）、アートホテル大阪ベイタワーにお二人の先生をお迎えして勉強会を開催した。本合同講演会では、工業会、本学会からそれぞれ一名ずつ講師を推薦・依頼することが恒例になっている。

最初の講演は、松本章一先生（大阪府立大学工学研究科・教授）にお願いし、「未来社会に貢献する高機能高分子材料：異種材料接合から易解体生接着まで」という題目で講演いただいた（Fig. 1）。松本先生は、大阪市立大学のご出身で、博士課程に進まれた後、同大学で教鞭をとられて化学生物系専攻で研究室を持たれた。2013年より大阪府大に移られ、「合成高分子化学」という研究室を持たれて研究活動を行われている。

次の講演は、辻井良二先生（摂南大学理工学部・元教授）にお願いした。辻井先生からは、「汎用新摩擦接合技術の開発」について、特に新日鉄八幡製鉄所における摩擦接合の研究開発について、ビデオもまじえながらお話しいただいた。

Fig. 1. (color online). Special Lecture by Prof. Akikazu Matsumoto.

参加者数は、工業会側 49 名、学会側 22 名に上り、盛会となった。両先生の講演は、エポキシを中心にした有機材料と、鋼鉄材料という正反対の材料を用い、また接合方法も、かたや剥がすことを念頭に入れた易解体接着技術、もう一方は圧着・溶接という二度とはずれない（！）接合技術という、用途もスケールも全くかけ離れた応用研究である。しかしながら、「世の中の役に立つ、オンデマンド接合技術」という熱意ある、またわかりやすいお話しで、大変興味深く拝聴することができた。質疑討論も活発に行われ、ご提案されている接合技術が、企業や我々の暮らしの中で見事に実用化されていることを認識した。

2. 懇親会

講演会終了後、50 名以上の参加で、場所を移動して合同の懇親会を開いた。冒頭、真空工業会の三島関西支部長と小職が挨拶を行い、工業会とは、新学会としてもこれまで以上の協力関係を維持・継続していくこと、また関西支部についても、今後もその底力を遺憾なく発揮していきたいという決意（？）を確認した。三島支部長からは、本講演会に多数参加してほしいという期待感から、工業会側の参加者に対して本学会の参加者が少なかったことを指摘いただいたが、来年以降の課題として承った。

最後に、お忙しい中、大変熱のこもった講演をいただいた松本先生、辻井先生と、本講演会をアレンジいただいた推薦者の高木様（工業会）、櫻井先生（本学会）、およびお手伝いいただいた皆様方には心より感謝申し上げます。また、本合同講演会は、旧真空学会の時代から開催費用をすべて真空工業会側が負担しており、この場をお借りして、改めて感謝の意を表します。

* E-mail : kuwahara@prec.eng.osaka-u.ac.jp